

《担当者名》准教授 / 寺崎 将

【概要】

薬学における公衆衛生学は、「健康な人を対象に健康な人が病気にならないようにする学問」として、薬を必要としない健康体を維持するための予防健康科学の分野を担っている。人の健康の維持・増進のために、病気を予防し、環境によって引き起こされる疾病を防止するには、社会・集団の視点から健康と疾病を理解し、地域の中で普及することが重要である。公衆衛生学の講義では、公衆の健康的な生活を確保し、人々の健康状態に応じた予防や健康増進のために寄与する薬剤師活動を行うために必要な知識を社会・集団の立場から考察できることを目的とする。

【学修目標】

公衆衛生に関する知識を修得すると共に、公衆の生（生命・健康）を衛り、向上、増進させる方策について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	健康と疾病の概念 1. 公衆衛生とは 教科書：p2～5、p130～134、p144～146	健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 D1-(1)- -1	寺崎 将
2	保健統計 1. 人口統計の意義 2. 人口統計と疾病統計 教科書：p6～26	集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するうえで人口統計の意義を概説できる。 人口統計および疾病統計に関する指標について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 D1-(1)- -1,2	寺崎 将
3	保健統計 3. 我が国の死因別死亡率 教科書：p26～39	人口動態（死因別死亡率など）の変遷について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 D1-(1)- -3	寺崎 将
4	疫学 1. 疫学の意味 2. 疫学の種類と方法 3. 疫学調査結果の解析 4. 疫学計算の練習 教科書：p40～56	疾病の予防における疫学の役割を説明できる。 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。 リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 D1-(1)- -1～4	寺崎 将
5	疾病の予防とは 1. 疫学予防の段階 2. 我が国の健康増進政策 教科書：p58～66	疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。 健康増進政策（健康日本21など）について概説できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 D1-(2)- -1,2	寺崎 将
6	感染症とその予防 1. 感染症の特徴 教科書：p67～74	現代における感染症（日和見感染症、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 D1-(2)- -1	寺崎 将

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
7	感染症とその予防 2. 感染症とその対策 教科書：p75～95	感染症法における、感染症とその分類について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 D1-(2)- -2	寺崎 将
8	感染症とその予防 3. 性感染症の特徴と報告数の推移 教科書：p95～96	代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 D1-(2)- -3	寺崎 将
9	感染症とその予防 4. 予防接種 教科書：p97～100	予防接種の意義と方法について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 D1-(2)- -4	寺崎 将
10	生活習慣病とその予防 1. 生活習慣病の概念と現状 教科書：p101～104	生活習慣病の種類とその動向について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 D1-(2)- -1	寺崎 将
11	生活習慣病とその予防 2. 生活習慣病の特徴とリスク要因 教科書：p104～116	生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 D1-(2)- -2,3	寺崎 将
12	母子保健 1. 新生児マスキニングの特徴 教科書：p117～127	新生児マスキニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 D1-(2)- -1	寺崎 将
13	母子保健 2. 母子感染の特徴 教科書：p127～129	母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 D1-(2)- -2	寺崎 将
14	労働衛生 1. 職業病の要因 教科書：p135～142	代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 D1-(2)- -1	寺崎 将
15	労働衛生 2. 職業病防止対策 教科書：p142～143	労働衛生管理について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 D1-(2)- -2	寺崎 将

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末定期試験（100％）。

試験後に解説講義、あるいは試験の解説書の配布を行う。

【教科書】

「衛生薬学 - 基礎・臨床・予防」（改訂第3版）今井浩孝、小椋康光（南江堂）
講義配布プリント

【参考書】

「衛生薬学 - 健康と環境」 スタンダード薬学シリーズII-5 日本薬学会編（東京化学同人）

【学修の準備】

1～15回の授業全てにおいて、当日の授業内容を予習し、あらかじめ疑問点等を把握しておくこと（80分）。授業の最後に授業内容に関わる小テスト（評価対象外）を実施するので、積極的な授業参加をすること。教科書、講義配布プリント、参考書を活用した復習を行い、授業内容の理解を深めること（80分）。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

D1 健康

(1) 社会・集団と健康

【 健康と疾病の概念】【 保健統計】【 疫学】

(2) 疾病の予防

【 疾病の予防とは】【 感染症とその予防】【 生活習慣病とその予防】【 母子保健】【 労働衛生】

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。